



「バベルのような企業、私のような性格の経営者にとっては、スカイアーチのような会社が向いていると思います。理由は・・・」

株式会社バベル 代表取締役社長 湯浅美代子氏

翻訳会社の老舗バベルは、自らのビジネスをすべてインターネット化する「eバベル構想」を推進中である。その構想におけるスカイアーチの役割について、代表取締役社長 湯浅美代子氏に聞いた。(写真右は、スカイアーチネットワークス(以下、スカイアーチ)代表 江戸)



### 株式会社バベル 会社概要

社名 株式会社バベル  
 本社 〒106-6004  
 東京都港区六本木1-6-1  
 泉ガーデンタワー4F  
 Tel: 03-6229-2444  
 Fax: 03-6229-2440

創業 1974年4月

設立 1977年4月

主な事業内容 翻訳スクール、翻訳依頼、翻訳出版および翻訳に関わる人材派遣・人材紹介

URL <http://www.babel.co.jp>

### バベルの業態 ～ 翻訳を軸に社会価値を創出

#### — バベルの業態について教えてください。

バベルは、「翻訳」を軸にして社会に貢献する会社です。具体的には、翻訳スクール、翻訳請負、翻訳出版、人材派遣・紹介などを行っています。現在は、「eバベル構想」を進めています。翻訳、出版、教育という「アナログ」なイメージの強い事業を、すべてインターネット・ベースで行っていくという構想です。

### インターネットに衝撃を受けた

#### — 湯浅社長がeバベル構想を持ったのはいつからですか。

構想自体はパソコン通信の時代からありました。そしてインターネットの存在を初めて知ったのが94年頃です。世界中から情報が集められる、検索できる。言いたいことも即座に発信できる。衝撃でした。バベルは絶対にインターネットベースの会社にならなきゃと思いました。ここまではインターネットの「攻め」の魅力です。

「守り」の魅力も大きかったですよ。バベルは当時、郵便を使った通信教育の会社でした。生徒から、翻訳作品を受けとって、それを先生が手書きで添削して、封入して、返信してというアナログの作業。郵便代だけで年間1億円もかかっていました。インターネットを使えば、そのコストがゼロ円になる。そりゃ経営者としては惹かれます。

それからはアメリカに出かけてホスティング会社を見学したり、数百万円かけて自社でサーバを買い込んでWebサイトを立ち上げたり、年間50万人の応募者を管理するためのシステムを開発したり、自力で試行錯誤しました。

